

釧路工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	歴史と文化A	
科目基礎情報							
科目番号		0074		科目区分	一般 / 選択		
授業形態		講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科		機械工学分野		対象学年	4		
開設期		通年		週時間数	2		
教科書/教材		教科書 『西洋経済史』 (有斐閣アルマ)、補助教材 タペストリー (帝国書院) 参考書: ハルムート・ケルブレ著 永岑三千輝 監訳 瀧川 貴利 他 訳『冷戦と福祉国家』 (日本経済評論社)、ハルムート・ケルブレ著 永岑三千輝 監訳 瀧川 貴利 他 訳『ヨーロッパ社会史』 (日本経済評論社)					
担当教員		瀧川 貴利					
到達目標							
1 経済史の流れを知ることができる。 2 ヨーロッパとアメリカなどの歴史的形成を知ることができる 3 第二次世界大戦後の社会史・経済史を知ることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		ヨーロッパ経済史やアメリカ経済史の流れを完全に把握している。		ヨーロッパ経済史やアメリカ経済史の流れをだいたい把握している		ヨーロッパ経済史やアメリカ経済史の流れを理解していない。	
評価項目2		ヨーロッパ世界やアメリカ世界が経済史的に形成されたことを十分に理解している。		ヨーロッパ世界やアメリカ世界が経済史的に形成されたことをだいたい理解している。		ヨーロッパ世界やアメリカ世界が経済史的に形成されたことをあまり理解していない。	
評価項目3		社会史・経済史的視点を持って、国際社会を批判的に考察する基礎力を持つことができる。		ヨーロッパ世界やアメリカ世界を社会史・経済史的視点を持って考察する基礎力がおおむねについている。		社会史・経済史的視点を持って思考する力をみにつけていない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 A JABEE a							
教育方法等							
概要		ヨーロッパ経済史やアメリカ経済史を勉強することで、異文化の理解を深めます。ヨーロッパ絵画や建築などの解説も行います。 第二次世界大戦以降は、『冷戦と福祉国家』、『ヨーロッパ社会史』を参考にして講義します。					
授業の進め方・方法		教科書を使いますが、ヨーロッパ絵画や建築などについてTeamsなどを使って、詳しく解説します。第二次世界大戦以降は、「ヨーロッパ社会史」、「冷戦と福祉国家」を使用します。 合否判定: 定期試験 (前期 5 0 % + 後期 5 0 %) の平均が 6 0 点以上を合格とします。定期試験は 4 回あります。 不合格者については、再試験または課題学習の評価が 6 0 点以上で合格とする。 ★関連科目: 歴史総合、歴史と文化B					
注意点		授業には必ず教科書と補助教材を持ってくるください。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	序章 古代から中世へ		ギリシャ史について理解できる		
		2週	序章 古代から中世へ		ローマ史について理解できる		
		3週	序章 古代から中世へ		中世について理解できる		
		4週	第 1 章 ヨーロッパの拡大と国際競争の開始		大航海時代について理解できる		
		5週	第 1 章 ヨーロッパの拡大と国際競争の開始		大航海時代について理解できる		
		6週	第 2 章 1 7 ～ 1 8 世紀の「経済危機」と国家の形成		1 7 ～ 1 8 世紀のオランダについて理解できる		
		7週	前期中間試験		前期中間試験を実施する		
		8週	第 2 章 1 7 ～ 1 8 世紀の「経済危機」と国家の形成		1 7 ～ 1 8 世紀のフランスについて理解できる		
	2ndQ	9週	第 3 章 ヨーロッパの工業化をどうとらえるか。		ヨーロッパの工業化について理解する		
		10週	第 3 章 ヨーロッパの工業化をどうとらえるか。		同上		
		11週	第 4 章 ヨーロッパにおける工業化の始動		イギリス産業革命について理解する		
		12週	第 5 章 さまざまな工業化		イギリスの工業化について理解できる		
		13週	第 5 章 さまざまな工業化		ヨーロッパ大陸の工業化について理解できる		
		14週	第 5 章 さまざまな工業化		同上		
		15週	第 6 章 「第 2 次産業革命」の時代		第 2 次産業革命について理解できる。		
		16週	前期末試験				
後期	3rdQ	1週	第 7 章 ヨーロッパの外で		植民地時代のアメリカ合衆国の経済について理解できる。		
		2週	第 7 章 ヨーロッパの外で		南北戦争について理解できる。		
		3週	第 8 章 世界大戦とヨーロッパ経済		第一次世界大戦の経済的意味について理解できる。		
		4週	第 8 章 世界大戦とヨーロッパ経済		世界大不況について理解できる。		
		5週	第 9 章 第 2 次世界大戦後のヨーロッパ経済		戦後国際経済の枠組みについて理解できる。		
		6週	第 9 章 第 2 次世界大戦後のヨーロッパ経済		高度経済成長について、理解できる。		

		7週	後期中間試験	後期中間試験を実施する
		8週	第9章 第2次世界大戦後のヨーロッパ経済	高度経済成長について理解できる
	4thQ	9週	第9章 第2次世界大戦後のヨーロッパ経済	石炭鉄鋼共同体について理解できる。
		10週	第10章 EUへの道	冷戦の終結について理解できる。
		11週	第10章 EUへの道	EUについて理解できる。
		12週	第10章 EUへの道	EUについて理解できる
		13週	第10章 EUへの道	EUについて理解できる
		14週	第2次世界大戦後のヨーロッパ	ヨーロッパ社会史を理解できる。
		15週	第2次世界大戦後のヨーロッパ	冷戦と福祉国家を理解できる。
		16週	後期末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5
				近代化を遂げた欧米諸国が、19世紀に至るまでに、日本を含む世界を一体化していく過程について、その概要を説明できる。	3	前6,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,後1,後2
				帝国主義諸国の抗争を経て二つの世界大戦に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、平和の意義について考察できる。	3	後3,後4
				第二次世界大戦後の冷戦の展開からその終結に至る日本を含む世界の動向の概要を説明し、そこで生じた諸問題を歴史的に考察できる。	3	後5,後6,後8,後9,後10
				19世紀後期以降の日本とアジア近隣諸国との関係について、その概要を説明できる。	3	後11,後12,後13,後14,後15
			公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	後15
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	後1,後2
	工学基礎	グローバルゼーション・異文化多文化理解	グローバルゼーション・異文化多文化理解	それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。	3	後1,後2
				様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。	3	後1,後2
				異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。	3	後11,後12
				それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。	3	後11,後12

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他（課題）	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0